

# TKS report vol.26

TECHNOLOGY AND KNOWLEDGE ENRICH SOCIETY

## 第114期中間報告書

2019年3月1日～2019年8月31日

## ■ トップメッセージ/企業理念



代表取締役社長  
竹 中 洋

平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの第114期上半期（2019年3月1日～8月31日）のわが国経済は、雇用情勢や所得環境の改善が続くなか、各種政策の効果もあり、企業収益も底堅く推移するなど、景気は緩やかな回復基調が続きました。一方、海外においては、米中貿易摩擦の長期化に加え、サウジアラビアの石油施設攻撃による中東情勢の緊迫化や戦後最悪と言われる日韓関係の悪化が世界経済に与える影響などから、先行き不透明感が高まる状況となりました。

このような状況の下、当社グループは、試験機事業では、引き続き、試験機・計測機器の開発・設計・生産からメンテナンス・校正まで、長年の実績と高度な技術に裏付けられたワンストップソリューションの提供により、鉄鋼をはじめとする素材産業、自動車、鉄道等の輸送用機械、建設、一般機械等の産業分野や各種研究機関、学校、官公庁など幅広いユーザーに製品・サービスを提供するとともに、海外展開も視野に入れ、さらなる受注拡大に取り組みました。

エンジニアリング事業では、特許を有するゆるみ止めナットとスプリングのインフラマーケットへの浸透と市場シェアの拡大を図りました。また、従来からの

一般消費者向けの生活関連商品の販売は、インバウンド需要の動きに大きく影響されるものの、拡大傾向を維持することができました。さらに、収益の拡大と財務基盤の安定に向けて、従前からの事業に加えて新たな柱を作るべく、当期から海外向けの商品の仕入・販売を中心とした商事事業を開始したことにより、大幅に売上高を積み上げることができました。

海外事業では、中国子会社において製造・販売しているオフィス家具部品や家電部品、自動車部品などのプラスチック成型品の収益の確保に努めましたが、米中貿易摩擦の影響により仕入コストが増加し、欧米向け製品の売上高が大幅に減少するなど経営環境が悪化したことから、財務体質の改善に向けて購買管理の改善・強化や人員配置の適正化等に取り組むとともに、新たなアイテムの受注を獲得すべく営業活動に注力いたしました。

当上半期の業績につきましては、海外事業の建直しに苦戦を強いられたものの、グループ全体としては当初の計画に沿って比較的順調に推移いたしました。今後は期末に向けて早急に海外事業の改善に取り組むとともに、新たに開始した商事事業の拡大等により収益の拡大を目指す所存であります。

皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## contents

トップメッセージ/企業理念	— 1
決算ハイライト	— 2
事業内容	— 3
事業の概況	— 4
第2四半期（累計）連結財務諸表（概要）	— 5
トピックス	— 7
緩み止め製品の採用事例のご紹介	— 9
株式情報/会社概要/役員等	— 10



### Technology and Knowledge Enrich Society

「技術と知識で豊かな社会の実現に貢献する」

技術への挑戦と  
顧客からの信頼

常にお客様の立場に立ち、  
“価値ある商品”を提供します。

人間性の尊重

一人ひとりの“能力・意欲・創意を  
尊重する”とともに、やさしさと  
温かみのある人間集団を目指します。

地域社会への貢献

日々の誠実な活動を通じ、  
地域からも“信頼される  
企業市民”であり続けます。

## 決算ハイライト

### 第114期第2四半期累計期間 (2019年3月1日～2019年8月31日)

	連結業績	個別業績 (当社単体)
売上高	3,057百万円 (前年同期比+25.6%)	635百万円 (前年同期比+324.5%)
営業利益	167百万円 (前年同期比+49.5%)	26百万円 (前年同期は△0百万円)
経常利益	135百万円 (前年同期比+38.7%)	170百万円 (前年同期は△8百万円)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	88百万円 (前年同期比△71.5%)	175百万円 (前年同期比+752.6%)
1株当たり四半期純利益	12円44銭	24円66銭

### 業績のポイント

- ①試験機事業は、売上高は前年同期を上回り、営業利益は例年並みの水準を確保
- ②エンジニアリング事業は、ゆるみ止め製品の販売が好調で売上高・利益ともに前年同期を上回る
- ③海外事業は、中国経済の減速の影響を受け業績が低迷
- ④前年度好調であった(株)東京衡機試験機の配当の実施により当社単体の経常利益が増加

※△は損失を示しております。

当第2四半期連結累計期間は、試験機事業では、既存製品の高性能化・高機能化等のブラッシュアップや、受注生産製品・パーツの標準化の推進、個別製品原価管理の徹底による原価低減等を継続して、収益基盤の強化を図ってまいりました。受注につきましては、研究開発を中心とした企業の設備投資が堅調なことから、前年度に引き続き好調に推移しました。売上高につきましては、期初においては前年と比較して出遅れ感があったものの、好調な受注環境を背景に前年同期を上回る売上高を確保することができました。また、営業利益につきましては、前年同期を下回ったものの、例年並みの利益を確保いたしました。

エンジニアリング事業のうち締結具事業では、ゆるみ止めナット・スプリングを道路、エネルギー関係等の社会インフラ向けや国内の建設市場向けに製品の市場浸透・シェアの拡大に努め、売上高・利益ともに前年同期を上回りました。また、商事事業では、従来から行っている一般消費者向けの生活関連商品の販売については、インバウンド需要の動きに左右されたものの、当期から海外向けの商品の仕入・販売を開始したことにより、大幅に売上を伸ばすことができました。

海外事業では、中国子会社にてオフィス家具部品や家電部品、自動車関連部品等のプラスチック成型品の製造販売の拡大に努めましたが、米中貿易摩擦による関税引上げの影響による仕入コストの増加、中国を起点としたサプライチェーンの毀損等により北米向けの売上高が減少するなど大幅な減収となり、経費の削減に向けて購買管理の改善・強化、人員配置の適正化等の施策を講じるとともに、新たな受注の獲得に努めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は上記のとおりとなりました。

## ■ 業績の見通し (2019年10月15日の決算発表時点)

### 第114期 (2019年3月1日～2020年2月29日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	
連結業績	通期	6,000百万円	250百万円	230百万円	170百万円

※個別業績予想の公表は行っていません。

## 事業内容

1923年創業の伝統と高い技術力を誇る試験機事業をはじめとして、画期的なアイデアで社会に安心と安全を提供するエンジニアリング事業など、技術と知識で豊かな社会の実現に貢献すべく様々な事業を展開しています。

### 試験機事業

試験機・計測機器の開発・設計・生産からメンテナンス・校正・受託試験サービスまで高度な技術力によりワンストップソリューションを提供しており、産業界や各種研究機関から広くご愛顧をいただいております。



試験機事業

海外事業

### 海外事業

中国子会社の樹脂成型技術を活かして、オフィス家具部品や自動車関連部品、家電関連部品等のプラスチック成型品の製造販売を行っています。



**TKS**  
TOKYO KOKI

Technology and Knowledge ENRICH SOCIETY

エンジニアリング事業

### エンジニアリング事業

画期的なアイデアと独自の技術で開発したゆるみ止めナットとナットの脱落を防止するゆるみ止めスプリングの製造販売（締結具事業）とともに、一般消費者向け商品の卸販売等（民生事業）を行っています。



アジア地域における拠点

MONGOLIA

CHINA

NORTH KOREA

SOUTH KOREA

JAPAN

無錫三和塑料製品有限公司

東京衡機試験機豊橋工場

東京衡機試験機相模原工場

東京衡機試験機サービス

東京衡機エンジニアリング

TKS 東京衡機

## 事業拠点



相模原工場

本店

〒101-0025

東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地第7東ビル



豊橋工場

### 国内子会社

#### 株式会社東京衡機試験機

■本店・東京支店  
東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル

■相模原工場・東京支店（相模原オフィス）  
神奈川県相模原市緑区三井315番地

■豊橋工場・中部支店  
愛知県豊橋市北島町字北島202番地

■大阪支店  
大阪市淀川区西中島五丁目12番8号 新大阪ローズビル7階

#### 株式会社東京衡機試験機サービス

■本社  
神奈川県相模原市緑区三井315番地

■西日本営業所  
大阪府大阪市淀川区西中島七丁目8番17号 花原第五ビル8階

#### 株式会社東京衡機エンジニアリング

■本社  
東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地 第7東ビル

### 海外子会社

無錫三和塑料製品有限公司（中国江蘇省無錫市）

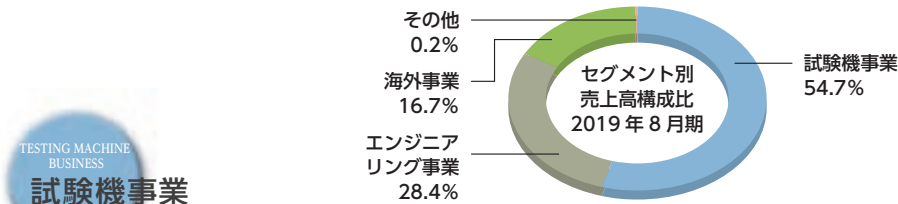
無錫特可思衡機貿易有限公司（中国江蘇省無錫市）

※無錫特可思衡機製造有限公司から社名変更

## 事業の概況

当社グループは、2017年度から「再生のステージから、新たな企業創生へのチャレンジへ！」をテーマに各事業において以下のビジョンを掲げ、新たな東京衡機グループの創生に取り組んでいます。

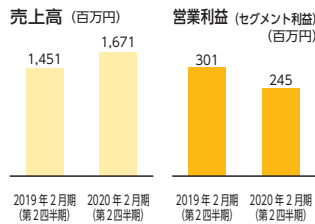
試験機事業	産業の基盤技術として、存在感のある試験機事業会社を目指す。
エンジニアリング事業	顧客満足と社会の発展に貢献する企業を目指す。
海外事業	生産能力拡張により上海江蘇地域で業界 No.1 を目指す。



### Testing Machine Business

売上高 1,671百万円

営業利益 (セグメント利益) 245百万円



当上半期は、鉄鋼業界や自動車業界、建設業界等で引き続き設備投資が堅調で、材料試験機や動的試験機の拡販に努めるとともに、既存製品のブラッシュアップや特殊品の標準化の推進、原価低減等に取り組ましました。その結果、受注は前年度に引き続き好調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。また、営業利益は前年同期を下回ったものの、一定水準の利益を確保いたしました。今後につきましては、標準品の販売拡大や定期的な需要が見込まれる修理・メンテナンスの受注・売上の拡大を進めてまいります。

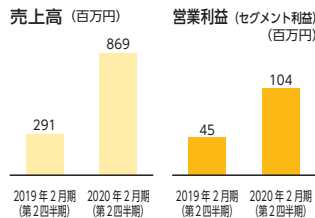


Engineering BUSINESS

### エンジニアリング事業

売上高 869百万円

営業利益 (セグメント利益) 104百万円



当上半期は、社会インフラ関係や建設関係を中心とするみ止め製品の市場浸透・市場シェアの拡大に努め、売上高・利益ともに前年同期を大きく上回ることができました。今後は、東京オリンピック関連の公共事業が終息に向かう一方で、地方創生事業や災害・老朽化対策などの公共投資の増加が見込まれることから、引き続き受注拡大に努めます。また、商事事業では、従前からの一般消費者向けの生活関連商品の販売に加え、海外向けの商品の仕入・販売を当期から開始したことにより、より安定的に売上高・利益を確保できるようになりました。



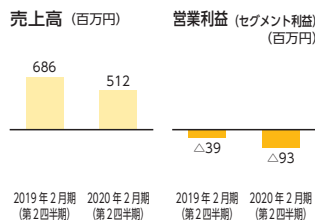
### Engineering Business

Overseas BUSINESS

### 海外事業

売上高 512百万円

営業利益 (セグメント利益) △93百万円



当上半期は、引き続きオフィス家具部品や家電部品、自動車関連部品等のプラスチック成型品の製造・販売に注力いたしましたが、米中貿易摩擦による関税引上げの影響による仕入コストの増加や中国を起点としたサプライチェーンの毀損などにより、北米向けの売上高が大幅に減少するなどしたため、新たな受注を獲得すべく、営業活動に注力するとともに、売上高の落込みに対応して、購買管理の改善・強化、人員配置の適正化等に取り組ましました。今後につきましては、コスト管理の徹底をさらに進めるとともに、グループの連携を深め販売体制の強化を図ってまいります。



### Overseas Business

※売上高には、外部顧客への売上高を記載しております。

※△は損失を示しております。

第2四半期（累計）連結財務諸表（概要）（単位：百万円、単位未満切捨て）

四半期連結貸借対照表

科目	前第2四半期末 2018年8月31日現在	当第2四半期末 2019年8月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,945	3,074
現金及び預金 <b>1</b>	555	824
受取手形及び売掛金	1,142	1,140
たな卸資産 <b>2</b>	1,120	973
繰延税金資産	7	—
その他	215	235
貸倒引当金	△ 95	△ 99
固定資産	1,167	1,206
有形固定資産	1,071	1,073
無形固定資産	11	12
繰延税金資産	37	79
投資その他	252	230
貸倒引当金	△ 205	△ 189
<b>資産合計</b>	<b>4,113</b>	<b>4,281</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	2,121	1,765
固定負債	788	989
<b>負債合計 <b>3</b></b>	<b>2,910</b>	<b>2,755</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本 <b>4</b>	833	1,153
その他の包括利益累計額	369	372
<b>純資産合計</b>	<b>1,203</b>	<b>1,525</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>4,113</b>	<b>4,281</b>

**Point1** 現金及び預金

長期借入金等の資金調達を行ったことにより前第2四半期末に比べ2億69百万円増加しております。

**Point2** たな卸資産

主に中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の原材料の評価減により、前第2四半期末に比べ1億46百万円減少しております。

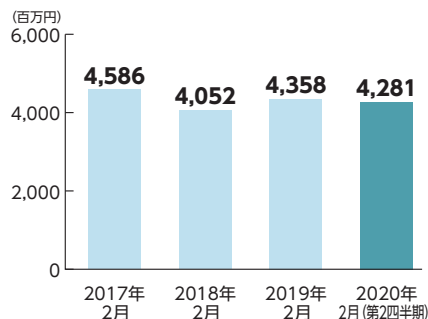
**Point3** 負債合計

資金調達により長期借入金が増加したものの、買掛債務の減少や訴訟損失引当金の戻入等により前第2四半期末に比べ1億54百万円減少しております。

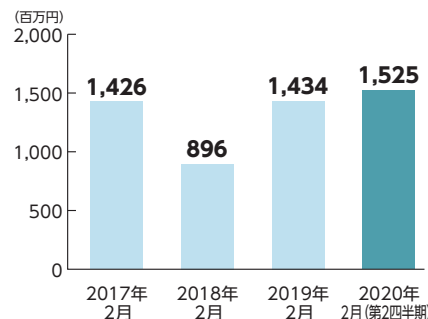
**Point4** 株主資本

前連結会計年度下半期は2億32百万円の純利益、当連結会計年度上半期は88百万円の純利益を計上したことから、前第2四半期末に比べ3億20百万円の増加になっております。

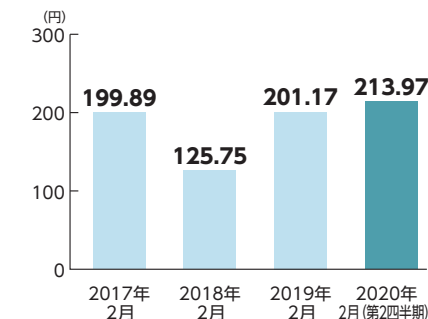
総資産



純資産



1株当たり純資産



※2018年9月1日付の株式併合に伴い、2017年度期首に株式併合が行われたと仮定して算定しております。

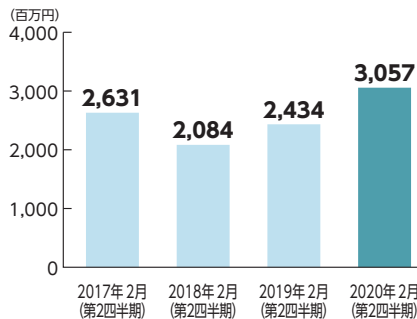
## 四半期連結損益計算書

科目	前第2四半期 (累計) 2018年3月1日～2018年8月31日	当第2四半期 (累計) 2019年3月1日～2019年8月31日
売上高 <b>5</b>	2,434	3,057
売上原価	1,765	2,352
売上総利益 <b>6</b>	668	705
販売費及び一般管理費 <b>7</b>	556	538
営業利益	112	167
営業外収益	7	9
営業外費用	22	42
経常利益	97	135
特別利益 <b>8</b>	476	17
特別損失 <b>9</b>	148	—
税金等調整前四半期純利益	425	152
法人税等	115	63
四半期純利益	310	88
親会社株主に帰属する四半期純利益	310	88

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

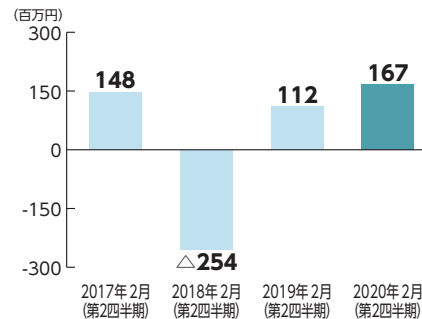
科目	前第2四半期 (累計) 2018年3月1日～2018年8月31日	当第2四半期 (累計) 2019年3月1日～2019年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	461	152
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 122	△ 7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 232	18
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 7	△ 0
現金及び現金同等物の増加額	99	161
現金及び現金同等物の期首残高	439	618
現金及び現金同等物の期末残高	539	779

### 売上高

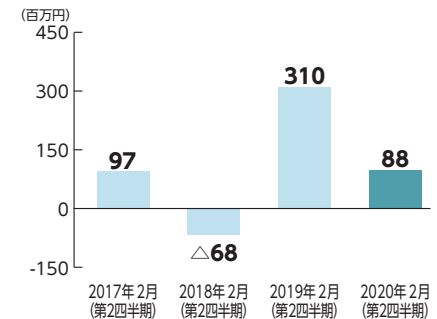


※△は損失を示しております。

### 営業利益



### 親会社株主に帰属する四半期純利益



### Point5 売上高

売上高は前第2四半期 (累計) に比べ6億23百万円増加いたしました。試験機事業は2億20百万円、エンジニアリング事業は5億77百万円増加したものの、海外事業は1億74百万円減少しております。エンジニアリング事業の売上高増加の主な要因は、新たに開始した商事事業における海外向け商品の仕入・販売によるものであります。

### Point6 売上総利益

売上総利益は前第2四半期 (累計) に比べ37百万円増加いたしました。売上総利益率は4.4ポイント悪化し23.1%となっております。

### Point7 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、主に当社の費用削減により前第2四半期 (累計) に比べ18百万円減少しております。

### Point8 特別利益

前第2四半期 (累計) は、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の本社工場の取用に伴う補償金4億63百万円を特別利益に計上しております。当第2四半期 (累計) の特別利益17百万円は、中国子会社に係る訴訟損失引当金の戻入によるものであります。

### Point9 特別損失

前第2四半期 (累計) は、中国子会社である無錫三和塑料製品有限公司の本社工場の取用に伴う移転費用1億7百万円、同社の元従業員等との労働関係訴訟に伴う損失見込額39百万円を特別損失に計上しております。

トピックス

日本試験機工業会主催「TEST2019」への出展

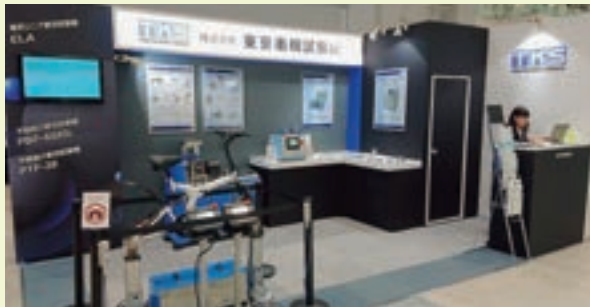
2019年9月11日（水）から13日（金）までの3日間、東京ビッグサイトにて日本試験機工業会主催の「TEST2019－第15回総合試験機器展」が開催されました。この展示会

は、「未来につなぐ試験と計測“見える信頼－確かな品質”」をテーマに、「材料試験、環境試験と計測、評価に関する国内唯一の総合展」として2年に1度開催される大きなイベントです。今年は61社・団体が出展し、3日間で合計1万2千名以上の来場者がありました。

（株）東京衡機試験機は、今回は、ELA型電気リニア疲労試験機2台で自転車のフレームに振動を加える疲労試験機のデモンストレーションや、PBF-60Xb型平面曲げ疲労試験機とPTF-30型モーメント制御機能付平面曲げ疲労試験機の実機運転、薄板万能試験機の試験片を用いた試験例の紹介、パネルと液晶モニターによる製品紹介等を行いました。開催期間中は毎日多くの来場者が出展ブースに訪れ、新規のお引合いのお話しや各種試験に関するご相談もお受けし、大変有意義な展示会となりました。



疲労試験機のデモンストレーション



（株）東京衡機試験機の出展ブース



来場者への説明の様子



## 一軸試験機のJCSS校正範囲の拡張

JCSS (Japan Calibration Service System) は計量法に基づく制度で、計量器に対して国家計量標準にトレーサブルな校正を行う事業者に対して、その校正技術能力が試験所および校正機関認定の国際規格を満たしていることを、独立行政法人製品評価技術基盤機構 (NITE) 認定センター (IAJapan) が審査して登録を行っています。

(株)東京衡機試験機では、2002年6月に豊橋工場の校正センターにて、2009年4月に相模原工場の校正グループにて、日本工業規格JIS B 7721「引張試験機・圧縮試験機—力計測系の校正方法及び検証方法」に基づいた一軸試験機のJCSS校正機関として認定登録を受けています。相模原工場の校正グループの圧縮力についての校正範囲は、従前は最大5000 kNでしたが、近年、大型試験機を含む各種試験設備に対する試験結果の信頼性向上を目的としてJCSS校正のニーズが高まってきたことに対応するため、大型の力計 (10 MNロードセル) を設備として導入し、校正範囲の拡張に向けた準備を進め、本年5月に範囲拡張等に伴う認定機関の審査が無事に完了し、最大10000 kN (10 MN) まで対応できるようになりました。今後は校正サービスをさらに拡充し、メーカーとしてお客様に高精度な試験機をご提供するとともに、より高いレベルでメンテナンスサービスを行ってまいります。



認定事業所	登録区分	登録番号	種類	校正範囲	
相模原工場 校正グループ	力 (一軸試験機)	0238	JIS B 7721による 方法	圧縮力	1 N以上 10000 kN以下
				引張力	1 N以上 1600 kN以下
豊橋工場 校正センター	力 (一軸試験機)	0113	JIS B 7721による 方法	圧縮力	1 N以上 3000 kN以下
				引張力	1 N以上 300 kN以下

特集

# 緩み止め製品の採用事例 のご紹介



今回は、(株)東京衡機エンジニアリングが製造販売している緩み止め製品のうち、「スマートハイパーロードナット」と「T-スプリング」の採用事例につきまして、実際の取付け現場を撮影させていただきましたのでご紹介いたします。

## 1. 高層ビルの外壁への取付け

ここ数年、勢力の強い大型台風の接近や上陸で日本列島に大きな被害をもたらしていますが、台風などの風の影響を考慮して、高層ビルの外壁を留め付けるナットに緩み止め性能を有したナットが採用される事例が増えてきています。

今回ご紹介する写真はスマートハイパーロードナットの採用事例です。スマートハイパーロードナットは、ハイパーロードナットにさらなる改良を加えたスプリング内蔵型の高機能緩み止めナットで、緩みの発生原因の多くを占める振動外力に対して強力な緩み止め性能を有しており、数多くの緩み止めナットの中でも、特に緩み止め性能に優れている点が評価されて採用されました。また、スマートハイパーロードナットは、高いトルクの導入が困難な箇所での使用も可能で、通常のナットと同一の方法で取付け取外しができるという特長があります。



## 2. トンネル工事現場での活用

関東地区で進められている大型トンネル工事の中で、土砂やコンクリートといった重量物を日々運搬する車両のレールを留め付ける緩み止めの締結金具として、T-スプリングとスマートハイパーロードナットが採用されました。T-スプリングは、ボルトの余長につけることで緩み・脱落を防止できるスプリングで、スマートハイパーロードナットと同様に振動外力に対して強力な緩み止め性能を有しています。通常のナットでは点検や増し締めなど多くの作業工数が発生しますが、今回は、お客様からT-スプリングとスマートハイパーロードナットを使用することで作業工数の削減が期待できるとのご判断をいただき、採用にいたしました。



## 株式情報 (2019年8月31日現在)

### ● 株式の概況

発行可能株式総数	26,000,000株
発行済株式の総数※	7,133,791株
株主数	3,265名

※上記の発行済株式の総数には、自己株式2,844株を含みます。

### ● 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
Dream Bridge株式会社	21,401百株	30.01%
竹中 洋	3,595百株	5.04%
株式会社AIIN	2,488百株	3.48%
佐藤 充弘	1,793百株	2.51%
石井 照義	1,058百株	1.48%
岡崎 由雄	1,050百株	1.47%
何 積橋	1,011百株	1.41%
宝天大同	504百株	0.70%
安田 要	500百株	0.70%
池上 道弘	466百株	0.65%

※持株比率の算定においては、発行済株式より自己株式(2,844株)を控除しております。

### ● 株式の分布状況



● 事業法人等	24,776百株	34.73%
● 個人・その他	43,323百株	60.73%
● 金融機関	615百株	0.86%
● 証券会社	1,332百株	1.87%
● 外国法人等	1,261百株	1.77%
● 自己名義株式	28百株	0.04%
合計	71,337百株	100%



● 1単元未満	158名	4.84%
● 1単元以上	1,856名	56.84%
● 5単元以上	448名	13.72%
● 10単元以上	621名	19.02%
● 50単元以上	91名	2.79%
● 100単元以上	91名	2.79%
合計	3,265名	100%

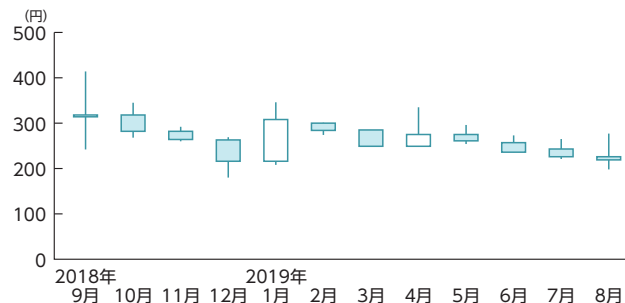
## 会社概要 (2019年8月31日現在)

商号	株式会社東京衡機
本店所在地	東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地
創立	1923年(大正12年)3月20日
資本金	27億1,355万2,013円
従業員数	13名(連結298名)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京衡機グループの経営戦略の立案・遂行</li> <li>・グループ子会社の統括管理およびサポート</li> <li>・商事事業</li> </ul> 【グループの事業内容】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験・計測機器および関連機器の製造・販売ならびに修理・メンテナンス、校正、受託試験その他の付帯サービス</li> <li>・ゆるみ止めナット、ゆるみ止めスプリング、特殊ばね、ボルトその他の締結部材の製造・販売、各種サービス</li> <li>・一般消費者向け商品の販売、各種サービス</li> </ul>

## 役員等 (2019年8月31日現在)

代表取締役社長	竹中 洋
取締役 試験機事業担当	上野 正男
取締役 エンジニアリング事業担当	平田 真一郎
取締役 管理本部長	石見 紀生
取締役(社外取締役)	石渡 隆生
取締役(社外取締役)	飯屋 浩一
取締役(社外取締役)	藤田 泰三
常勤監査役	鶴見 孝
監査役(社外監査役、弁護士)	水川 聡
監査役(社外監査役)	玉虫 俊夫
監査役(社外監査役、公認会計士・税理士)	瀬山 剛
会計監査人	アスカ監査法人

### ● 株価の推移



## 株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
期末配当金受領株主 確定日	2月末日
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同上連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同上連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1番1号 ☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第二部
公告の方法	電子公告 (掲載URL <a href="http://www.tksnet.co.jp">http://www.tksnet.co.jp</a> ) (ただし、電子公告によることができない事故その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式買取・買増請求その他の各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関するお手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行株式会社）にお問い合わせください。同行全国各支店でもお取次ぎいたします。

東京衡機ホームページ  
<http://www.tksnet.co.jp/>

IR情報はここからご覧いただけます。



### ロゴマークについて

“技術力” “獨創性” “人” “伝統” 全てをリンクさせ、一丸となって新しい時代へ向かう東京衡機の姿を表現するため、「青」「赤」「緑」「紫」を「光のイメージ」に展開しています。

#### 青：東京衡機の技術力

真っ青な海や空を眺めていると不思議と心が安らぎ、ポジティブな気持ちになります。そのことから「青」は冷静、自立、希望を象徴し、また知性、誠実のイメージをもつ色といわれています。次代のシーズを冷静に判断し、お客様のご要望に的確に応えるため、あらゆる知性を集約した、東京衡機の“技術力”を「青」で表現しています。

#### 赤：東京衡機の獨創性

万物に恵みを与えてくれる太陽の色「赤」は、外へと向かうパワーを感じさせます。

情熱、エネルギー、ダイナミック、活動的なイメージがあり、幸運を招く色としても知られています。新しい次代へ挑むエネルギーとなる、東京衡機の“獨創性”を「赤」で表現しています。

#### 緑：東京衡機の人

自然の美しさや木々の芽吹きを連想させる「緑」は、すがすがしさ、新鮮さ、新しい可能性、生命力を象徴する色です。いつまでも新鮮で、新しい可能性に満ち、時代を乗り越える生命力を備えた東京衡機の財産“人”を「緑」で表現しています。

#### 紫：東京衡機の伝統

染料の入手が困難なこと、染め出す技術が高度なことより、古来から「紫」は高貴な色として崇められ、また伝統、古典のイメージをもつ色です。1923年創業という長い歴史を誇る、東京衡機の“伝統”を「紫」で表現しています。

株式会社 **東京衡機**  
**TOKYO KOKI CO. LTD.**

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町一丁目9番地  
TEL 03-5207-6760 FAX 03-5298-1802



環境に配慮した植物油インキを使用しております